



大和証券グループ 子ども支援団体対象

NPO組織基盤助成 ボランティア推進プログラム のご紹介

— インパクトの可視化に向けた指標設計と測定結果 —

Volunteer

エグゼクティブサマリー

- Nボラ第1期では、子ども支援団体が「ボランティアと協働できる組織」へと変化するプロセスが進みました

1

組織基盤の変化

10団体中2団体で新規受け入れ開始、
8団体で登録ボランティア増加

- 受け入れの「型」の整備が進展
- ボランティアの導線と役割の明確化を志向
- 研修や振り返りなどの運営プロセスの仕組み化が進展
- ボランティアコーディネーター機能の構築

結果 関わりたい人が安心して
参画できる土台が生まれた

2

組織文化の変化

10/10団体で意識・関係性に変化

- 対等なパートナーシップにもとづく協働が定着
- ミッションを共有した関係性の構築
- 日常的な対話と学習の文化の定着化
- 団体・ボランティア双方の参画意欲向上

結果 「手伝う／手伝われる」から
「共につくる」関係へ

3

子ども支援への還元

10/10団体で子ども支援の質向上を実感

- 活動の安全性と体験の質が向上
- 年齢・発達段階に配慮した活動設計
- 安全管理・リスクマネジメントの強化
- 新たな取り組みや学びの創出

結果 子どもが安心して関われる、
質の高い場が広がった

➤ ホームページ

: <https://nbora.grant.etic.or.jp/>

本プログラムにおける「子ども支援」

: 日本国内の子ども・若者の貧困課題の解決および予防につながる取り組み

背景と目的 — 協働が求められている現実から出発する —

- 子ども支援の現場では、協力したい人の想いと、それを受け止める組織の仕組みとの間に、少なからずギャップがあります

ボランティアの広がりや、子どもを取り巻くさまざまな課題に対して問題意識を持ち、自ら取り組む人を増やす重要な契機となっています。また、活動を通じて子どもと「個」として触れ合う経験は、ボランティア自身が社会とのつながりの中で役割と居場所を見だし、生きる力を得る機会にもなります。

しかし、とりわけ子どもを対象とする活動では、年齢や発達段階への配慮、安全性の確保、信頼関係の構築など、慎重な運営が求められます。善意だけでは支えきれない課題が現場に重くのしかかり、受け入れの仕組みや役割設計が整っていないことから、協働が継続しにくい状況が生まれています。

一方で、ボランティアとの協働は単なる人手不足の解消にとどまらず、団体に新たな視点や学びをもたらす、活動の質を高める可能性を秘めています。だからこそ必要なのは、個人の思いや努力に依存するのではなく、協働を「仕組み」として支える組織基盤です。



Nボラ(NPO組織基盤助成 ボランティア推進プログラム)は、資金支援に加えて研修と伴走支援を組み合わせることで、子ども支援団体がボランティアと安心・安全に協働できる体制を整え、組織として持続可能性を高めることを目的に始めました。

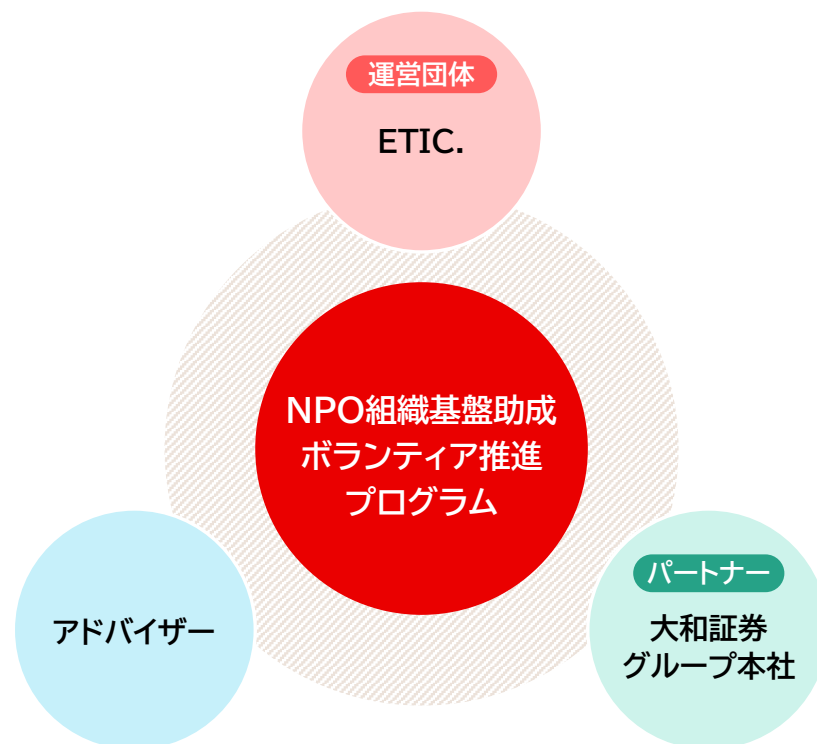
本プログラムでは、組織基盤の強化を通じて活動の安全性と体験の質を高め、その成果を子ども支援へ確実につなげていくことを目指しています。

プログラム概要

- Nボラは、資金支援に加え、研修と伴走を組み合わせることで、子ども支援団体がボランティアと協働するための基盤づくりを支えるプログラムです

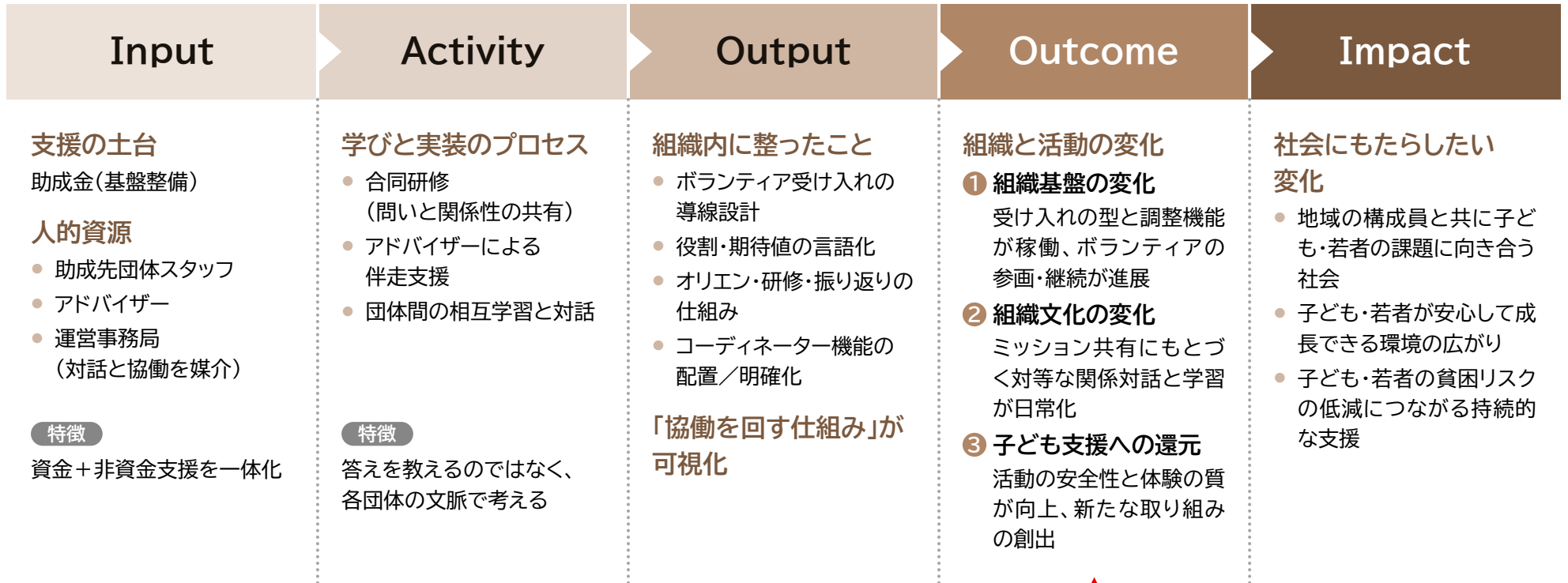
アドバイザー、運営事務局、パートナーがそれぞれの立場から協力し、正解を示すのではなく、各団体の現状に寄り添いながら、協働を継続するための仕組みを育ててきました。

採択団体数	10団体
助成期間	2025年4月～2025年12月
1団体あたりの助成金額	100万円
非資金的支援	<ul style="list-style-type: none">● 合同研修による活動相談や事例共有● ボランティアと協働した活動実績を有する団体の現場視察● 他団体とのネットワーキング 等



ロジックモデル

- 資金と非資金支援を一体化し、組織成熟と子ども支援の質向上へ至る道筋を明確に整理しました



以下の指標で確認

① 組織基盤の変化

- 登録ボランティア変化率
- 安定化指数
- コーディネーター整備指数

② 組織文化の変化

- 意識変化指数
- 意見反映成熟度
- 意思決定参画指数

③ 子ども支援への還元

- 活動の質向上指数
- 新規活動創出指数

第1期で確認した変化と主な指標(KPI)

- 本ページの数値は、助成後アンケート(回答10団体)をもとに、団体規模差を考慮し、「変化率」・「指数(0-100)」・「到達率」で整理しています
- 100点満点が理想ではなく、団体規模や出発点が違う中で、“前に進んだか”を測っています

測
っ
た
か
何
を
か

主
な
指
標

ポ
イ
ン
ト

1 組織基盤の変化

ボランティアを受け入れ、
継続できる組織になったか

登録ボランティア数の変化率

助成期間を通じて、ボランティアの受け入れ基盤がどの程度拡張したかを示す指標

2団体で新規受け入れ開始、8団体平均で56%増加

継続ボランティア安定化指数

ボランティアが「関わり続けられる状態」に近づいた度合いを示す指標

90/100

ボランティアコーディネーター機能整備指数(担当者人数の変化率ベース)

ボランティア受け入れを担う体制が、人的配置の面でどの程度強化されたかを示す指標*

83/100

受け入れの「型」が整った団体ほど、
参画と継続が安定

2 組織文化の変化

ボランティアとの関係性や
対話の質が変わったか

ボランティアとの関係性に関する意識変化指数

スタッフ・団体側の「ボランティア観」がどの程度変化したかを示す指標

90/100

ボランティアの意見・提案を取り入れる仕組みの成熟度指数

日常的な対話や提案が、仕組みとして定着している度合い

72/100

ボランティアの意思決定参画 成熟度指数

ボランティアが、企画や方針づくりにどの段階まで関わっているか

52/100

対話が日常化した団体で、
協働の質が向上

3 子ども支援への還元

組織の変化が、
子ども支援の質に還元されたか

子どもにとっての活動の質 向上指数

ボランティアとの協働が、子どもにとって「より良い体験」につながったかを示す指標

100/100

新しい活動・役割の創出進展指数

子どものニーズに応える新たな活動や役割が生まれた度合い

80/100

補助指標 新規活動創出率:78%

基盤整備が、活動内容の改善に
つながっていることを確認

※ 開始前に担当者がいなかった団体については、新規配置を「最大評価」として指数化

第1期 採択団体 — 多様な現場から、協働の実践が始まった —

- 第1期では、全国各地で子ども支援に向き合う10団体が集い、それぞれの現場から「協働のかたち」を探る歩みを進めました

第1期では、全国各地から10の子ども支援団体が参画しました。

地域や分野は異なるものの、いずれの団体も
「ボランティアと協働し、活動の質を高めたい」という
共通の想いを持っていました。

本プログラムでは、それぞれの文脈を尊重しながら、
協働を支える基礎的な体制づくりに取り組み、
団体同士が学び合う場を育んできました。



※ 団体名・活動分野・地域の詳細は次ページ以降で紹介します

第1期 採択団体紹介 ※ 50音順

特定非営利活動法人 愛知こどもホスピスプロジェクト



公式サイト <https://lp.achp.jp/>

所在地 愛知県名古屋市

生命を脅かされる状態の子どもときょうだい、家族を支える「こどもホスピス」の開設を目指して活動している。「存分に生きるを、一緒に。」という理念のもと、限られた時間の中でもどんな気持ちも分かち合える場をつくる。ボランティアや地域社会と連携し、イベントや支援活動を通じて温かいコミュニティの形成を目指す。

特定非営利活動法人きらきら星



公式サイト <https://kirakiraboshi.wooder.info>

所在地 山梨県南巨摩郡富士川町

すべての子どもたちに自然体験の機会を提供することをミッションに、森のようちえん活動、自然の中での自然体験活動、プレーパークや体験型環境学習活動を行っている。五感で感じることを大切に、こどもの育ちに関わる大人がみんなで見守り、大人も育つコミュニティを目指す。

一般社団法人CARNIVAL WORKS



公式サイト <https://carnival-works.org/>

所在地 福島県郡山市

貧困・虐待・孤立など数えきれない困難が付きまとう現代において、高校生・大学生など次世代を担う若い世代と共に社会課題としっかり向き合うことで、繋がりを生み出し、いざという時に支え合えるまちを創出する。子どもたちはもちろん、みんなの笑顔が尽きない、そんな明るい未来を創り続けていく。

特定非営利活動法人くるくるネット



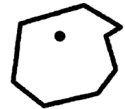
公式サイト <https://www.kuru2.net/>

所在地 北海道室蘭市

地域の子どもたちや住民に対して、安心して過ごせる居場所を提供する。学びや遊び、食事を通じた交流の場を運営し、悩みを抱える人々への相談支援や、地域とのつながりを深める活動を行っている。

第1期 採択団体紹介 ※ 50音順

特定非営利活動法人 こどもサポートステーション・たねとしずく



たねとしずく
こどもサポートステーション

公式サイト <https://tanetosizuku.com/>

所在地 兵庫県西宮市

こどもの孤立・虐待予防をめざし、こども達が安心して学び・成長できる環境を提供。養育や経済的に困難な家庭への訪問や居場所での支援を通じて、社会的なつながりを促進し、持続可能な支援体制の構築に努めている。主に次の事業を実施。「居場所支援」「訪問型家事・子育て支援」「支援者支援」。

一般社団法人コンパスナビ



公式サイト <https://compass-navi.or.jp/index.html>

所在地 埼玉県さいたま市

社会的養護下で育った若者や、困難を抱えて孤立する若者たちを対象に、就労・住居・生活支援、居場所づくり等を通じて、安心して社会へ踏み出す力を育み、自立を総合的に支援する。

特定非営利活動法人子どもと文化のひろば ふれいおん・とかち



公式サイト <https://www.play-on-tokachi.net>

所在地 北海道帯広市

【あそぶ・育ち合う・つながる】あそびや体験を通じて赤ちゃんから祖父母世代までの多世代が共に学び、育ち合える場をつくること。地域の力を持ち寄って、人と人との緩やかなつながり合いを網の目のように広げていくことで、子どもや子育てにやさしい地域づくりに貢献する。

特定非営利活動法人 静岡あたらしい学校



公式サイト <https://www.atasho.com/>

所在地 静岡県静岡市

子ども自身が持つ学びの欲求を信じ、現場・現物・現実からの生きた学びと達成経験を支えることを目指した認可外の小学生向け学び舎。子ども・大人・地域が、共に生き、共に学び、共に遊ぶ中でみんなで育てていく環境づくりを大切にしている。2024年からは中学生以上が集える場づくりも開始している。

第1期 採択団体紹介 ※ 50音順

特定非営利活動法人Since



公式サイト <https://since.or.jp/>

所在地 滋賀県近江八幡市

全ての子どもたちが健やかに育つ社会を実現する。そのために、「居場所」・「機会」・「出会い」を提供する。

特定非営利活動法人みんなの



公式サイト <https://www.npo-minnano.com/>

所在地 北海道砂川市

北海道砂川市で、子ども若者を中心に地域住民みんなが安心して過ごせる居場所「みんなの秘密基地」を開き、困難や困り感を抱えた子どももそうでない子ども誰もが自分と自分の人生を好きなまま自由に羽ばたく翼を折らずに育む地域社会の実現を目指し活動している。



2026年1月30日最終報告会での記念写真(第1期採択団体、アドバイザー、ETIC、大和証券グループ本社)

採択団体からのコメント

- アンケートより一部抜粋してご紹介します

ボランティア募集＝お手伝いではなく、仲間を増やすことだと考えが変わった。
研修や他団体との対話を通じて、数年後の協働の姿まで想像できるようになった。

プログラムの存在意義を確認できた

高校生が班のリーダーを担ったことで、子どもたちは強い愛着を示した。
年齢の近い存在だからこそ話せる悩みがあり、体験の質が確実に変わった。

子ども支援への還元を実感できた

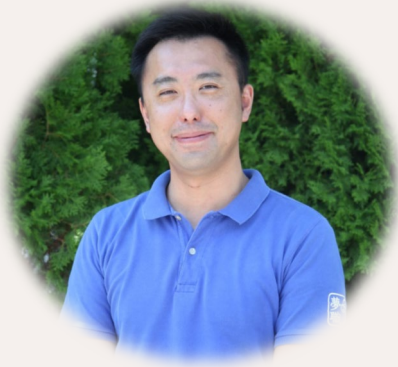
有給・無給にこだわらず、団体を支える人としてどう関わるかを考え続けた。
やってほしいことを具体的に伝え、選択できる余地を示すことの大切さに気づいた。

組織文化の変化を確認できた

人数や機会の面では十分ではなかったが、受け入れの基盤を整える最初の一步を踏み出せた。

継続・発展への視点を確認できた

アドバイザー



認定NPO法人夢職人
理事長
岩切 準 氏

東洋大学大学院社会学研究科社会心理学専攻修了。認定NPO法人「夢職人」理事長。大学在籍中の2004年に夢職人を設立。首都圏を中心に、子どもや若者の学びと育ちを支える社会教育事業・社会福祉事業を展開。自然体験・野外活動、スポーツ・レクリエーション、科学・文化・芸術活動、社会体験・キャリア教育等の子どもの体験活動や教育旅行、デジタル技術を活用した困窮家庭への食の支援「Table for Kids」などに取り組む。学生や若手社会人のユースボランティアが中心となる組織運営をしており、事業の信頼性や品質を確保する仕組みを構築すると同時に、個々の自主性を尊重した柔軟な運営を実現している。



認定NPO法人チャリティーサンタ
理事
河津 泉 氏

岡山県岡山市出身。大学生時代より、地域づくりやボランティア活動に従事。大学卒業後は一般企業、大学職員などの経歴を経て、NPO業界へ。NPOの中間支援でボランティアセンターなどで働いたのち、現在認定NPO法人チャリティーサンタに入職し、主に子どもの貧困に関わる事業や行政との協働事業などを担当。ボランティアコミュニティとして全国で実施されるチャリティーサンタの立ち上げ期から法人化まで様々な段顔でボランティアマネジメントに関わる。



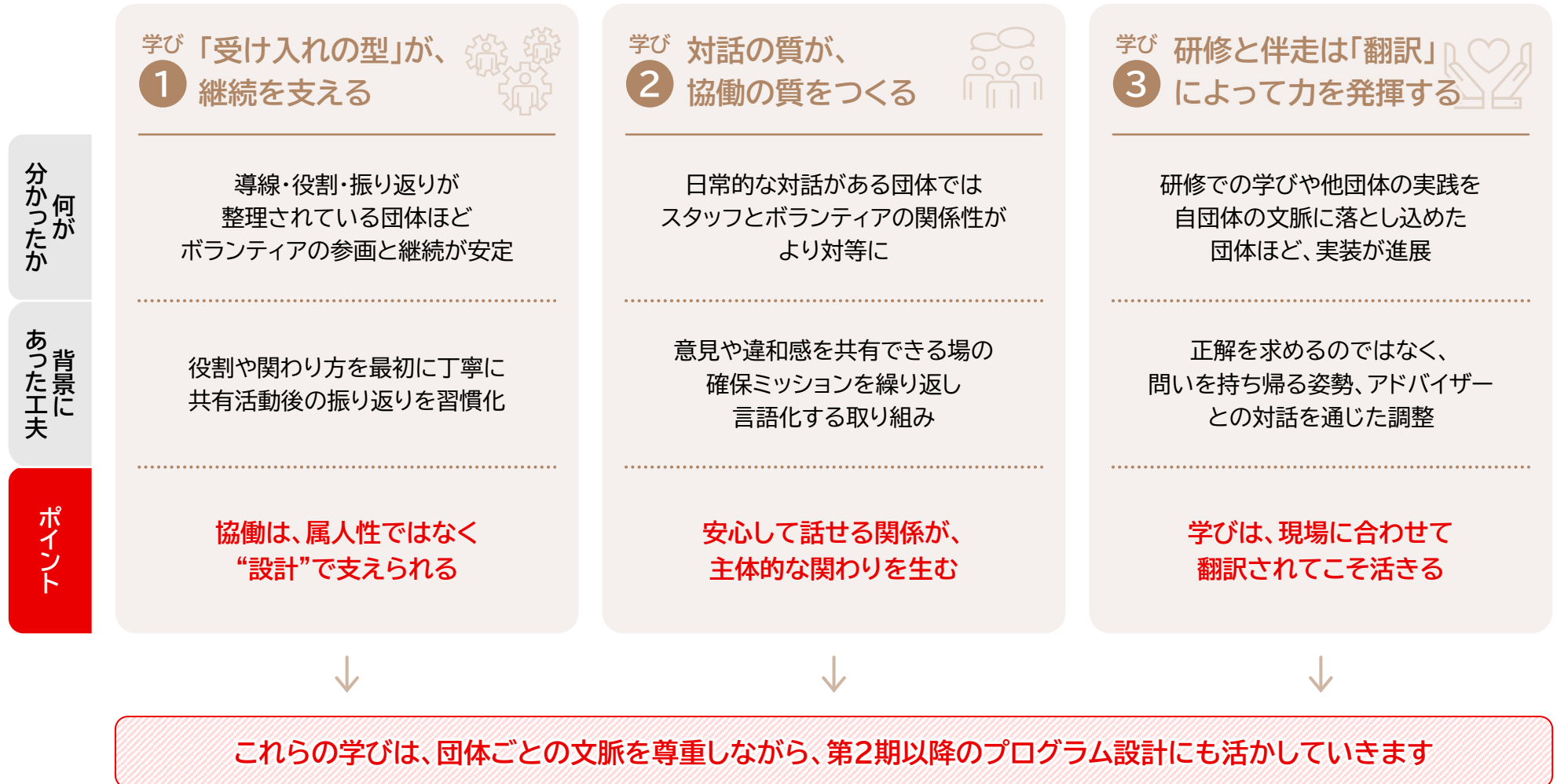
NPO法人ezorock 代表
NPO法人北海道NPOサポートセンター
理事(戦略担当)
草野 竹史 氏

1979年札幌市生まれ。酪農学園大学経営環境学科卒。建設コンサルティング会社にて、まちづくりや環境調査業務に従事。26歳の時にezorock代表に就任し、地域が抱える課題に対して、若者を主体とするプロジェクトを創出。これまで延べ2万人を超える若者に対して北海道各地の取組に参加する機会を提供している。また、2011年の東日本大震災の際には被災地でのボランティアコーディネートを実施。

その経験から災害時に限らず、日常的な地域内外の関係づくりの重要性を認識し「いつものつながりがいざという時の力に」をキャッチコピーに、関係人口創出プロジェクト”179リレーションズ”を展開している。

第1期からの学び — 第1期から見えてきた、協働を育てる3つの学び —

- 10団体の実践からボランティアとの協働を続けるために欠かせないポイントが見えてきました



今後の展望 — 第2期に向けて 学びを広げ、協働を根づかせる —

- 第1期で得た学びをもとに、協働の質を高め、その輪を地域へ広げていきます

第1期を通じて、子ども支援団体がボランティアと協働するための土台と文化が、各地で着実に育まれてきました。

私たちは今、この変化を一過性の成果で終わらせるのではなく、次の広がりにつなげる段階に来ていると考えています。

第2期では、第1期で整理したロジックモデルや指標を、実践をより良くするための「共通言語」として育てていきます。評価のための仕組みではなく、振り返りと学びを重ねるための手がかりとして活用し、団体同士が互いの経験に学び合える環境を整えます。

あわせて、協働の担い手と理解者を地域に広げていきます。関わりたい人が無理なく、安心して参画できる導線を磨くことで、ボランティアとの協働を特別な取り組みではなく、地域の日常として根づかせていきたいと考えています。

そして、現場で生まれた実践を知見として整理し、再現可能なモデルとして発信していきます。一人ひとりの現場の工夫を社会の資産へとつなげることで、子ども支援の質を長期的に支える基盤を築いていきます。

私たちは今後も、資金と学びの両輪でこの取り組みを支え続けます。子ども・若者が安心して成長し、未来に希望を描ける社会を、地域とともにつくっていくために。



運営団体およびパートナー

NPO法人ETIC.(エティック)について

Move Forward. ETIC.

行動を起こす人に伴走し、つなぎ、ともに「新しい社会」をつくる。

1993年創業、2000年にNPO法人化、2017年に認定NPO法人取得。起業家育成、企業や自治体などの異なるセクター間の共創コーディネート、コーディネーター育成に取り組んでいます。手がけてきた実践型インターンシップや起業支援プログラムへの参加を通して、約14,000名がプログラムに参加し、約2,000名が起業しました。

<https://www.etic.or.jp/>



2026年1月30日最終報告会 グループ対話・円座対話の様子

大和証券グループについて

私たちは金融・資本市場の恩恵を受ける企業として、資本主義が生み得る格差、とくに子ども・若者の貧困問題に向き合い、将来世代の機会を守るべきだと考え、2017年より「夢に向かって! こどもスマイルプロジェクト」をはじめました。社会基盤へ投じる長期投資ととらえ、NPO等への助成活動によって支える人を支え、助成先のレジリエンスを高めることで地域課題の改善に寄与し、持続可能な社会の実現を目指しています。

その要にある本プログラムは、ボランティアを対等なパートナーとして迎える組織づくりを資金と学びで伴走し、実装知を共有して全国へ広げます。安心で質の高い体験に継続的に出会える地域を増やし、子ども・若者が自分の可能性を信じられる社会を拡張していきます。

大和証券グループの社会貢献活動 ～課題解決のプロセス全体像～

課題

- 人口減による活力低下
- 多様性への対応
- 若年層の機会・教育格差

支援介入

アプローチ

①次世代へつなげる ②多様性をはぐくむ ③支える人を支える

- 金融経済分野での教育・研究活動
- 文化・芸術事業への協賛活動
- 財団・NPO等を通じた助成活動
- 企業市民活動

アウトカム

- 金融リテラシー向上
- 社員の社会課題のジブンゴト化／本業を通じた課題解決への貢献
- 助成先のレジリエンス向上／地域課題の改善
- 文化・芸術振興

目指すゴール

- 持続可能な社会の実現

大和証券グループ 子ども支援団体対象

NPO組織基盤助成 ボランティア推進プログラムのご紹介

— インパクトの可視化に向けた指標設計と測定結果 —

運営団体

特定非営利活動法人ETIC.



パートナー

株式会社大和証券グループ本社

大和証券グループ

2026年 4月